

敬大SPORTS Vol. 16

CONTENTS

- Page
- バレーボール部 ①
- 体育会会長 あいさつ ①
- 野球部/少林寺拳法部 ②
- 硬式テニス部 ③
- 鎌田光津希/今川未来インタビュー ③
- 敬愛大学体育会活動報告会 ④

● 敬愛大学体育会発行 ● 〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21 TEL.043(251)6363 ● March 23,2018

平成29年度 敬愛大学体育会所属クラブ活動報告(大会結果等)一覧

平成29年12月4日現在

少林寺拳法部▶(強化クラブ)

- 第54回少林寺拳法関東学生大会(5月4日 日本武道館)
 - 予選 単独段外の部 金谷 8位
 - 予選 単独有段の部 近藤 6位
 - 予選 男子二段以上の部 秋葉・鶴澤組 10位 関口・及川組 10位
- 第69回少林寺拳法千葉市民大会(10月22日 千葉公園体育館)
 - 組演武 一般有段の部 鶴澤・及川組 最優秀賞(1位)
 - 秋葉・関口組 優秀賞(2位)
 - 単独演武 一般有段の部 近藤 最優秀賞(1位)
- 第51回少林寺拳法全日本学生大会(11月26日 日本武道館)
 - 三人掛けの部予選出場 秋葉・鶴澤・及川
 - 単独有段の部予選出場 近藤
 - 単独段外の部予選出場 金谷

女子バレーボール部▶(強化クラブ)

- 平成29年度春季関東大学女子2部リーグ戦 (4月~5月 日大文理学部総合体育館他)
 - 3勝6敗 7位 2部残留
 - 【個人賞】ブロック賞:古川ほのか
- 第36回東日本バレーボール大学選手権大会 (6月22日 葛飾区水元総合スポーツセンター)
 - 1回戦 東海大学 3-0 敬愛大学
- 平成29年度秋季関東大学女子2部リーグ戦 (9月~10月 大東文化大学他)
 - 4勝3敗 3位
 - 【個人賞】該当者なし
- 平成29年度秋季関東大学女子2部特別リーグ戦 (10月21・22日 大東文化大学)
 - 1日目 江戸川大学 1-1 敬愛大学 白鷗大学 1-1 敬愛大学
 - 大東文化大学 0-2 敬愛大学
 - 2日目 都留文科大学 0-2 敬愛大学 江戸川大学 0-2 敬愛大学 結果:優勝
- 第64回全日本バレーボール大学女子選手権大会出場 (11月28日~12月3日 大田区総合体育館)
 - 1回戦 大阪国際大学 3-2 敬愛大学

野球部▶(強化クラブ)

- 平成29年度千葉県大学野球春季リーグ戦(1部) (4月~5月 ZOZOマリンスタジアム他)
 - 6勝7敗 勝点2 4位
- 平成29年度千葉県大学野球新人戦 (6月 長生の森球場他)
 - 1回戦 城西国際大学 4-6 敬愛大学
 - 2回戦 秀明大学 1-6 敬愛大学
 - 準決勝 千葉商科大学 5-3 敬愛大学
- 平成29年度千葉県大学野球秋季リーグ戦(1部) (9月~10月 長生の森他)
 - 5勝7敗1分 勝点2 5位

硬式テニス部▶(育成クラブ)

- 平成29年度関東学生テニストーナメント大会(個人戦) (4月~5月 各大学テニスコート)
 - 【男子ダブルス1次予選】 3回戦進出 渡辺・池ノ谷組、井上・関組
 - 【男子シングルス1次予選】 決勝進出 富永
- 千葉県学生テニス対抗戦 (5月~7月 各大学テニスコート)
 - 1回戦 東京成徳大学 1-8 敬愛大学

- 2回戦 城西国際大学 2-7 敬愛大学
- 3回戦 流通経済大学 5-4 敬愛大学
- 結果:2勝1敗 2部リーグ2位(19大学中6位)
- 平成29年度関東大学テニスリーグ 7部予選 (8月31日~9月6日 各大学テニスコート)
 - 第1戦 大東文化大学 6-3 敬愛大学
 - 第2戦 駿河台大学 2-8 敬愛大学
 - 結果:1勝1敗 ブロック2位(本戦出場ならず)
- 平成29年度関東大学対抗テニス選手権大会 (11月~12月 各大学テニスコート)
 - 【団体戦Aチーム】 1回戦 千葉大学(C) 1-4 敬愛大学
 - 2回戦 横浜国立大学(A) 2-3 敬愛大学
 - 3回戦 東洋学園大学(A) 4-1 敬愛大学 予選2位
- 平成29年度千葉県学生テニストーナメント大会(11月~12月)敬愛大学他テニスコート
 - 予選 ダブルス ベスト16 谷口・向後組、花澤・池ノ谷組 本戦出場
 - シングルス ベスト32 池ノ谷謙太、井上博人 本戦出場ならず
 - 本戦 ダブルス ベスト16 渡邊(和)・富永ペア
 - ベスト32 谷口・向後組、花澤・池ノ谷組
 - シングルス ベスト8 富永航基、ベスト16 渡邊和寛

軟式野球部▶

- 平成29年度東関東大学軟式野球春季東リーグ戦 (4月 東金青年の家野球場他)
 - 1勝4敗 5位
- 平成29年度東関東大学軟式野球連盟新人戦 (6月 城西国際大学)
 - 2回戦 国際武道大学 2-3 敬愛大学
 - 準決勝 城西国際大学観光学部 6-2 敬愛大学
- 平成29年度東関東大学軟式野球秋季東リーグ戦 (8月~9月 東金青年の家野球場他)
 - 1勝3敗1分 3位

バスケットボール部▶

- 第66回関東大学バスケットボール選手権大会 (4月22日 千葉工業大学習志野キャンパス)
 - トーナメント:1回戦敗退 対東京学芸大学
- 第93回関東大学バスケットボールリーグ戦 (9月9日~30日 千葉工業大学習志野キャンパス)
 - 0勝8敗

フットサル部▶

- 平成29年度千葉県フットサルリーグ (4月~12月 神田外語大学他)
 - 9勝10敗1分 11チーム中8位(現在リーグ戦継続中)

トライアスロン部▶

- アジアU23・ジュニア選手権日本代表選考会(4月23日 宮崎市みやざき臨海公園周辺)
 - 総合41位
- 日本U19トライアスロン選手権(7月2日 宮城県七ヶ浜町) 総合17位
- ASTCトライアスロンアジアカップ(7月8日 香川県高松市) 総合60位
- 日本学生トライアスロン選手権(9月3日 香川県観音寺市) 総合124位
- ITUトライアスロンアジアカップ(9月24日 新潟県村上市) 総合61位
- 日本学生スプリント選手権(10月22日 栃木県栃木市渡良瀬遊水地周辺)
 - スイム84位 ラン77位

チーム最高の3位と大健闘



オナイウ里奈

バレーボール部 主将 経済学部経営学科 3年

平成29年度秋季関東2部リーグで、並みいる強豪の中、大いに実力を発揮したバレーボール部。4勝3敗、8チーム中3位の成績で戦いを終え、敬愛大バレーボール部の真価をアピールする結果となった。

嬉しい気持ちがある一方で目標はあくまで1部昇格

2017年4・5月に行われた「春季関東大学女子2部リーグ戦」では、3勝6敗、10チーム中7位と奮戦。9・10月の「秋季関東大学女子2部リーグ戦」では、4勝3敗で、8チーム中3位という成績で戦いを終えた。関東2部リーグ3位の成績は、2011年に創設されたバレーボール部の快挙だが、「確かに嬉しいですが、一方で悔しい気持ちをみんな持っています」と新キャプテンのオナイウさん。

「私たちの目標は1部リーグ昇格です。2部リーグで2位になると、1部のチームとの入れ替え戦に臨みます。あと歩届かな

自分たちを律することがチームの明るさにつながった

バレーボール部では、2017年から練習方法を変えた。これまでは宇木博巳監督が練習メニューを作成していたが、昨年からには部員自身が自分たちに何が不足しているかを見極め、それを補うための練習メニューを考え、宇木監督と協議を重ね、練習に取り組む方法に転換した。


「自分たちで決めているから、自分たちを

自分たちを律することがチームの明るさにつながった

「敬愛大バレーボール部の強みは、チームワークのよさです。新チームは、去年のチームより攻撃力が劣っているという厳しい評価もありますが、気持ちの面でつなげれば、自分たちの力以上のものが出せるはずですよ。私たちのよさが最大限発揮できるような練習メニューを、私たちが考えていきたいと思います」とオナイウキャプテンは決意を語ってくれた。本年度はさらに進化させた敬愛大バレーボール部の底力を見せつけてくれた。

その結果最も変わったことは、チームの雰囲気以前にも増して明るくなったことだ。試合中に誰かがミスをしたら、その都度集り、声を掛け合い、気持ちを前向きに切り替えていく。その結果が、2部リーグ3位という結果につながった。

会長 あいさつ



人生100年とスポーツ

人間の寿命は着実に伸び続け、今や100歳超えは珍しくなくなり人生100年時代と言われています。100歳まで人生が続くことが当たり前となると、人生戦略の見直しも必要となります。長い人生の戦略を考える際、最も重要な要件は健康だと思えます。生涯に亘って健康を保持増進するには食育だけでなく、運動の継続が大切です。

スポーツには大きく分けて勝敗、優秀を争う「競技スポーツ」と、楽しむことを主たる目的として行う「レクリエーション・スポーツ」があります。楽しむことを目的とするスポーツであっても楽しく行うためには、ある程度の技術が求められます。例えばゴルフの場合でも、ただ止まっているボールを打つだけでは難しくないとはいえませんが、狙った方向にボールが飛ばないと決して楽しくありません。逆に自分に苛立ち、不愉快な気分になってきます。

従いレクリエーションと言っても、スポーツを楽しむ長く続けるためには練習や工夫が必要です。そのためには、若い時からスポーツに関心を持ち、何かの運動をすることが大切だと思います。大学で運動部の活動を通じて心身を鍛えつつ技術を向上させることは、他のスポーツを楽しむベースにもなるでしょうし、他方で、体育会に所属しなくても自分に合ったスポーツと長く付き合えるような色々な活動に取り組んで欲しいと思います。

敬愛大学体育会活動報告会開催

平成29年12月5日(火)「敬愛大学体育会活動報告会」が開催されました。はじめに、寛正学生部長による開会の挨拶の中で二つのお話がありました。

まず一つは、敬愛大学のマナーキャンペンにおいて体育会が学生たちの手本となるよう努めてほしいということ。もう一つは昨年、今年となかなか練習の成果が出せない試合結果についてでした。スポーツをし、目標を掲げて練習する以上試合では勝ちたいものです。そして応援する者としては、その喜ぶ姿を見たいものです。

各部の報告では、来年度に向けた力強い目標と抱負を聞くことができたので是非、頑張ってくださいとのことでした。

来年度の活動報告会では、盛大な祝賀会が開催できるよう来年度の活躍に期待を込めた報告会となりました。



平成29年度 敬愛大学体育会活動報告会



体育会強化クラブ

1部リーグ優勝を目指して始動



高野光輝 野球部 主将 経済学部経済学科 3年

勝つことにこだわり 一丸となつて次のステージへ

2017年9月から10月にかけて開催された平成29年度千葉県大学野球秋季リーグ戦1部で、敬愛大野球部は、国際武道大・城西国際大・中央学院大・東京情報大・千葉経済大と6チーム総当たり戦を戦った。その結果、中央学院大学、千葉経済大学を破り勝ち点2を獲得。勝ち点では、敬愛大、中央学院大、東京情報大の3チームが並んだが、勝率で敬愛大野球部の最終順位は5位となり、1部リーグへの残留を決めた。

「昨年の2016年は春季リーグこそ5位だったものの、秋季リーグは6位となり入れ替え戦を戦っている。昨年比べて、成績が向上している要因は、高野主将曰く「チームとしてまとまりが見えはじめていることが健闘につながっているのだと思います」

2016年から石井忠道監督が就任し、新体制となった野球部。好成績を収めることができたのは、走り込みやトレーニングで基礎体力の増強を図ったこと併せて、「礼儀を大切に」「時間を大切に」といった石井監督の指導方針が浸透してきたことも少なくない。

「練習メニューを消化しているという雰囲気になった。練習と練習の間の移動のスピード、用具を出し入れするときの協力など、主将である僕が注意するのはもちろんですが、みんなが意識して、声を掛け合いながら練習に臨んでいます」

強さと礼儀を身につけて 地域の方からも応援される部に

平成28年度から体育会に新たに設けられた「育成クラブ(強化クラブを目指すクラブ)」に認定されている硬式テニス部。2017年春には佐倉キャンパスのコートがオムコート(砂入り人工芝コート)3面にリニューアルされた。

「きれいなコートで、とても練習しやすい環境に整備されました。練習は、OBがコーチとして指導してくださり、設備的にも内容的にも恵まれた中で練習をしています」と直江副主将。

2017年は、男子は千葉県学生テニス対抗戦2部で2位になるなど躍進の年となった。 「チームとして全体的にレベルが上がってきています。練習試合を多い時は月4回以上組んだり、1〜2ヶ月に1回部内ランキング戦の機会を設けて切磋琢磨していることが影響しています」と富永主将は言う。加えて、チームの明るい雰囲気や個人のモチベーションを上げるのにも役を買っている。

「基本は楽しく、和気あいあいとしているのですが、練習には厳しく向き合い、お互いに注意もします。僕は、大学では部活をやらないうちでしたが、敬愛大のテニス部の雰囲気がよくて、こうしてテニスを続けています」(富永主将)

硬式テニス部に初めて女子部員が入部したのは2016年の直江副主将の代からで、2017年には

持ちが以前にも増して強くなっているのだと言っている。礼節を重んじる野球部では練習の傍ら、地域活動にも積極的に参加している。2017年は、野球部が日々の練習を行っている佐倉キャンパスグラウンドがある山王自治会の地域「斉清掃」に野球部員80名が参加。山王地区内にある5つの児童公園や佐倉キャンパス裏の市道などの清掃活動に取り組んだ。

「地方から出てきている部員が多いので、きれいで快適な寮ができたことで、みんな喜んでます。グラウンドの近くなので、いつでも体を動かさずし、寮内にはトレーニングルームもあります。練習時間に縛られることなく、やりたいときにやりたいだけ活動できるのが嬉しいですね。大学や後援会の協力もあって、僕たちには野球に集中できる環境が整っています。大学にも後援会にも、そして地域にも感謝しながら野球をしています」と高野主将。今季野球部の目標は、悲願ともいえる1部優勝だ。次なるステージを目指し始動している敬愛大野球部は、熱い声援を送りたい。



は、新たに2人の新入部員が加わり4人になった。

「女子部員は普段の練習で、男子部員と打ち合いをしているので、力がつきますよ」(直江副主将)

硬式テニスでは現在、男女共にテニス経験者問わず部員を募集。実際、直江副主将も高校まではバレーボール部で、大学に入ってからテニスを始めている。

「フレッシュなセミナー(部活動誘)で声をかけられて、たまたまテニス部に入りました。初心者でも、二人ひとりのレベルに合わせた練習メニューで無理なく上達することが出来ます」(直江副主将)

2018年の目標は、男子は千葉県学生テニス対抗戦1部昇格、女子は団体戦に出るため部員を増やし公式戦出場。

「大学に支えられていますし、地域の方々にも応援してもらっています。コートで練習してくれる隣の保育園の子たちが「ガンバレ」と応援してくれるのも嬉しいですね。礼儀を身につけて、そして少しずつ強くなって、たくさんの方に応援していただける部活になることも私たちの目標の一つです」と富永主将と直江副主将は力強く話してくれた。声援を力に変えて、今季はさらなる熱い試合を見せてくれるだろう。



富永航基 硬式テニス部 主将 経済学部経済学科 2年
直江桃子 硬式テニス部 副主将 経済学部経済学科 2年

体育会強化クラブ

目標は千葉県内の大学対抗戦で1部昇格

Interview

体育会強化クラブ

市民大会でワンツーフィニッシュ



関口真貴 少林寺拳法部 主将 経済学部経済学科 3年

目標は全日本学生大会への出場 部員を増やすことも課題

宗道臣が日本で創始した武道であり、武術の体系であると同時に「人づくりの行」であり、「自己確立」と「自己共栄」を教える中心思想とする少林寺拳法。敬愛大では14年前に少林寺拳法部が設立され、以後、少林寺拳法の強豪校としてその名を轟かせている。

「昨年は、10月に『2017年度少林寺拳法千葉市民大会』に参加。2名1組で行った組演武では、2組がエントリーし、めでたく最優秀賞、優秀賞、ワンスターファイナルを飾った。さらに、『単独演武』でも経済学部1年の近藤祐さんが力強い演武を披露し、最優秀賞を獲得。なんと、出場者全員が入賞するという快挙を成し遂げた。

一時期成績が低迷していた時期もあった少林寺拳法部だが、このころの復活劇について、関口主将は「予選を通過すればいいというのはなく、何としても賞を取りに行くという姿勢を持ち、二人ひとりが目標を持って練習に取り組んでいること



成し遂げた。一時期成績が低迷していた時期もあった少林寺拳法部だが、このころの復活劇について、関口主将は「予選を通過すればいいというのはなく、何としても賞を取りに行くという姿勢を持ち、二人ひとりが目標を持って練習に取り組んでいること

が大きい」と分析している。今季の目標も同じく千葉市民大会での上位入賞。さらには近年出場から遠のいている全日本学生大会への出場だ。

とはいえ、ここ数年の課題ともなっているのが部員数の確保だ。4年生が引退した現在、少林寺拳法部の部員は5名と少ない。部員には黒帯を持つている人も多いため、初心者にはハードルが高いと思われるが、決してそんなことはない。関口主将は言う。

「初心者から上手くなる人はたくさんいるので、初心者こそ入部して欲しいと思っています。少林寺拳法は護身術なので、自分の身を守るという意味でもやっていて損はないです。また大人数でやる野球やバレーボールと違って、少林寺拳法は少人数でもできることも魅力です。さらに言えば、3年あれば黒帯が取れる可能性もあります。有段になれば、履歴書にも書けるので、就職活動にも役に立つかもしれません」。さらに、少林寺拳法が上達するための奥の手を尋ねると、「愛校心です。この学校のために頑張ろう」という意識を持っている人は、不思議なことに自然と伸びていきますね」という秘策も教えてくれた。

少林寺拳法は、礼儀作法が身につくだけでなく、護身術も身につく、チームワークの大切さも実感できる。本紙を読んでいる新入生や、せうかくの大学生活だから何か始めてみたいと思っている在生は、月水木の5限終わりから稲毛キャンパスの敬愛アリーナで行われている練習を覗いてみては、いかがだろうか。

スロ野球 独立リーグ 鎌田光津希

Profile 経済学部経済学科 4年 匝瑳市立野栄中学校から横芝敬愛高校に進学。高校では3年夏に県4回戦に進出。敬愛大では1年春からリーグ戦に出場し、1、2年秋に各3勝を記録。投手、178cm 80kg、MAX148km。



ドラフト2位指名でプロ野球独立リーグ「徳島インディゴソックス」に入団した鎌田さん。本学卒業前の1月から徳島に移り、チームに合流して練習を開始している。

徳島インディゴソックスは、2017年独立リーグ日本を決めている。「チームとしての目標は今年も独立リーグ日本です。僕自身の目標は、16人いる新人の中でももちろん、既存の選手にも負

けないよう努力を重ねて、独立リーグ日本に貢献することです」と意気込みを語ってくれた。

「練習の課題は、コントロールを磨き上げること。球団には、ピッチングコーチやトレーナーがいるので、フォームを見てももらったり、身体の弱い部分を鍛えたりして、心技体ともにレベルアップして、勝てる投手になりたいですね」

敬愛大では、3・4年で伸び悩んだ時期があった。その悔しさがあ

るからこそ、今はもう野球に集中できるのだと言っている。

「何事も日々の努力の積み重ねで、薄い布を一枚一枚積み重ねていくようなもの。その一枚は薄くても、コツコツ重ねていけば、きつといい結果が待っているはずですよ」

2018年シーズンの開幕は4月。プロ野球投手として勝利をあげるその日が楽しみでならない。

Interview

スロボクシング 今川未来

Profile 国際学部国際学科 4年 木更津市出身、木更津グリーンベイズ所属。2015年3月プロデビュー。2017年全日本スーパーフライ級新人王を獲得。2017年12月時点での戦績は、11戦8勝(2KO)3敗。



2017年12月23日、後楽園ホールで行われたプロボクシングの第64回全日本新人王決定戦で優勝し、見事スーパーフライ級新人王に輝いた今川さん。2018年3月に敬愛大を卒業した後は、プロボクサーとして歩んで行く。とはいえ、ファイターはまだまだ少なく、当面はアルバイトをしたり、ボクシングができる就職先を探したりしながら続けていく覚悟だ。

「不安もあります。普通に就職しようかと考えたこともありま

す。でも、いつも応援してくれる人たちから、『どんな道に進んでも俺たちは、お前を応援するよ。できればボクシングを覗きたい』と声を掛けてくれたんです。その声に僕は勇気をくれました」

そう、今川さんのモチベーションの源は、応援してくれる人の存在なのだ。小学校時代に、「ボクシングをしてみたい」と言った今川さんの背中を押してくれたのは、10歳年上のお姉さんで、小学校から中学卒業まで、「未来の夢を応援したい」とジムの費用を自分のお給料の中から出してくれていた。

「姉は第一の母。姉ちゃんにもボクシングで恩返ししたいんです」 声援を力に変えて戦いに臨む今川さん。次の目標は、スーパーフライ級のチャンピオンだ。